

みんなのほくぶつかん みんなぱく

MINPAKU

池澤夏樹さんのトークイベントがみんなぱくで開催されました

4月29日（土）、みんなぱくが舞台の一部として書かれた小説『キトラ・ボックス』（KADOKAWA）の刊行を記念し、著者の池澤夏樹さん（小説家）のトークイベントが、菅谷文則さん（奈良県立橿原考古学研究所所長）、吉本忍さん（国立民族学博物館名誉教授）を招いて開催。小説に登場するキトラ古墳やみんなぱく、また未知への探究のスタンスなどをテーマに、それぞれ小説家、研究者の立場からトークが繰り広げられました。

はじめに池澤さんより、『キトラ・ボックス』の構想段階から完成に至るまでのエピソードが語られました。あるとき、考古学ミステリー小説を書きたいという思いにかられ題材を探していると、池澤さんがむかしからよく足を運んでいたみんな

ぱくが脳裏に浮かんだといいます。また、かねてから交流があった吉本さんの研究熱心な姿勢にも感銘を受けていたため、その姿を投影した学者を『キトラ・ボックス』に登場させようと決めたのもこのときだったそうです。

むかしから知的好奇心が旺盛で、気になることがあれば自分の足で現場に赴き、とことん調べるという池澤さん。研究者がどのように研究対象の素材を集めているのかにも関心があり、長年フィールドワークをおこなってきた菅谷さん、吉本さんの経験談に興味深い様子で耳を傾けていらっしゃいました。最後に、来場者からの質問にも笑顔で応じておられ、終始和やかな雰囲気の中にイベントは幕を閉じました。



トークイベントの様子。右から池澤夏樹さん、吉本忍さん、菅谷文則さん



トークイベントの前には、吉本さんが参加者にウイグル絨（かすり）織物について解説した